

令和7年度 佐久市総合計画審議会第2部会（第2回） 議事録

日時：令和7年7月25日（金）

午後2時～3時20分

場所：佐久市役所 議会棟 全員協議会室

【出席者】阿部部会長、中澤副部会長、滝沢委員、井出委員、二村委員、
木内委員、飯沼委員、伊藤（明）委員、川崎委員

【事務局】市村企画課長、小林企画調整係長、鷲見主任、中澤主任、久保田主事

○協議事項等

次第

1 開会

- ・部会長挨拶
- ・欠席委員報告（渡辺委員、伊藤（康）委員）

2 議事

- （1）第二次佐久市総合計画後期基本計画の進行管理について
（第2章 都市基盤分野）

質疑、意見

事務局	①進行管理表の見方について説明 ②「土地利用」について説明
部会長	「土地利用」について、質問、意見等あるか。
委員	拡散型の土地利用から集約型の土地利用への転換とのことだが、具体的な取組みはどんなものがあるのか。
事務局	立地適正化計画を策定しており、その中で居住誘導区域を定め、そこに対しどう投資していくかということで政策を進めている。
委員	計画が策定されているのは承知しているが、具体的な案という点については、他の自治体と比べると非常にチープである。 具体的な案があってそれぞれ連動していなければならないと思うがどうか。
事務局	具体的なところについては弱い。総合計画に併せて土地利用計

	画も２年かけて改訂する予定である。立地適正化計画の基になるのが土地利用計画であるため、その辺りも含めて協議いただければと思う。
委員	計画として認定してもらっているのに、それだけで終わってしまうのはもったいない。
委員	市内での地域格差をなくし、どの地域でも住めるような具体的な施策を講じるべき。人気のある佐久平周辺だけでなく、浅科や望月といったこれまで手薄だった地域にも人が集まるような魅力づくりが必要である。 農地についても、後継者不足で相続放棄されている。移住希望者が増加している中で居住地として提供できる場所が不足している。ハザードマップ等にかかわらず住みたいと思っても第１種農地であるため宅地化できないのが現状。地域の関係者と協議して計画を検討するべきである。
委員	土地利用の関係は総論では賛成、各論になると反対になりがちである。コンパクトシティについては２０年程前から認識されているが、成功例が少ない。インフラ維持等を考慮し拡散型の都市構造を集約型にしようとする中心部と周辺部が生じるため、周辺部からの合意形成が難しい。今後さらに人口減少が進む中で、今までできなかった集約化ができるかどうか課題である。 宅地確保の必要性は理解できるが、優良農地の転用は農業生産力の低下につながり、昨今の米不足で増産が求められている中で安易に宅地化することは難しい。 合意形成は必要であるが、ある程度の反発を覚悟しつつも市民の意見を反映したエッジの効いた計画を策定するために、一歩踏み出せば素晴らしい計画になると思う。
部会長	委員の意見として取り上げていただきたい。
事務局	「市街地」について説明
部会長	「市街地」について、質問、意見等あるか。

委員	市街地はどこを指しているのか。
事務局	都市計画用途地域を指している。
委員	土地利用とも関係し、空き家・空き店舗の関係が市街地に大きく関わっていると思うが、その対策をここに盛り込む必要はないのか。
事務局	空き家については、次の「住宅」のところで、空き店舗については、30 ページで「商業・サービス業」とところに盛り込んである。これについては次回審議いただく。
委員	土地利用と市街地の計画の繋がりや、元となるものはどこにあるのか。
事務局	土地利用については佐久市全体、市街地というのは岩村田商店街といった町場という位置づけ。主な施策ということで記載してあるものが佐久平周辺に集中している。
委員	30 年前に佐久平駅が開業したことで約 60ha の開発を行った。郊外型ショッピングモールを誘致することは全国的な傾向と一致している。30 から 40 年が経過し、大規模店が衰退するなど持続可能性に疑問を持ち検証をしている自治体もある。 佐久市でもイオンができたことで岩村田商店街のお店は 42 店舗から 20 店舗に、樋橋の開発で野沢も 3 店舗のみになってしまった。中心部への集中は車を持たない人が生活に困る。 周辺地域を含めた街づくりビジョンが欠如しているため、周辺部の価値を高め持続させるための具体的な計画が必要である。空き家・空き店舗対策も単なる補助金だけでなく、地域に魅力がないと来る人もいない。 商店街の活性化を取り戻すために新たな投資や政策が必要。 市が保有する基金を投資に回すなど旧市街地の再生に活用すれば周辺部が活性化する可能性があり、エッジの効いた計画になるのではないか。
事務局	岩村田商店街をはじめ、野沢や中込、臼田、浅科、望月を含め

	てこれからどうしていくかということで、コーディネート事業に取り組んでいただいているので整合性を図りながら落とし込めていけたらと思っている。
事務局	「公共施設」について説明
部会長	「公共施設」について、質問、意見等あるか。
委員	14 件（16 施設）新規指定、再指定とあるが、どの施設を指すのか。
事務局	全て施設の資料は持ち合わせていないが、あいとぴあ臼田や野沢多目的広場が該当する。 →（新規指定）1 件（1 施設） ・野沢多目的広場 （再指定）13 件（15 施設） ・佐久市矢島地区地域再生施設 ・佐久市望月土づくりセンター ・佐久高等職業訓練校 ・ほっとぱーく・浅科 ・プラザ佐久 ・佐久市布施温泉 ・佐久市国民宿舎もちづき荘、佐久市交流促進センターゆざわ荘 ・シルバーランドみつゐ、シルバーランドきしの ・結いの家 ・あいとぴあ臼田デイサービスセンター ・佐久市臼田総合福祉センターあいとぴあ臼田 ・佐久市望月老人福祉センター
委員	指定管理の新規指定や再指定はどのように指定しているのか。
事務局	対象施設を公募し、応募してもらった団体に企画提案をしていただき、外部委員が入っている指定管理審査委員会にて審査し候補者を決定する。その後議会の議決を経て正式に決定となる。
委員	人口減少の中で、公共施設が耐用年数を迎え、維持・管理が課

	題となっており、一部は統廃合も検討されている。公共施設の中には緊急時の避難施設となるなど地域住民の関心も高く、こういった施設が統廃合の対象となった場合の影響が懸念される。計画の中で「地域に必要とされる機能を勘案し」と記載されているが、具体的にどのように考えているのか。
事務局	総合計画や土地利用計画と同じく、個別施設計画や総合管理計画もこの2年間で改訂する予定であり、その中で廃止なのか長寿命化なのかを検討を進めていく。穂の香の湯が廃止されたのはこの計画に基づくものである。
委員	一概に線引きをするのがどうかと思うところもあるので、十分に検討する必要があると感じている。
委員	老朽化、維持費高騰、利用者減少を理由に施設を潰すという考えに疑問がある。同じものを作るとするのは無駄だと思うが、他の機能を持たせて有効活用する方向性で検討してもらいたい。 また、公共施設の廃止の基準を明確にしてもらいたい。
委員	公共施設の満足度は何を反映しているのか。
事務局	アンケートでは「公共施設の適正な更新と整備ができているか」と「適正な管理」ができているかの設問に対しての満足度から算出している。
委員	分かりやすいと思う反面、市民感覚からすると「公共施設は適正に管理されているか」と聞かれても漠然としているため、どちらともいえないという回答になってしまうと思われる。次回の計画策定時には設問を検討する必要があるかと思う。 公共施設はスポーツ振興や文化振興など目的のための手段として位置づけられるべきであり、この施策名だと何の施策なのか、公共施設をどうするのかなど理解しにくい可能性があり、施策名も検討する必要があるかと思う。 現行の計画書は行政視点ではよく書かれているが、市民にとっては専門的すぎて分かりにくいいため、総合計画であるならば、行政組織の縦割りを越え、分かりやすいように市民目線での改善が

	必要である。
事務局	「住宅」について説明
部会長	「住宅」について、質問、意見等あるか。
委員	空き家については地域によって状況が全く異なる。佐久平周辺は土地や建物が出てくればすぐに売れてしまう一方で浅科や望月といった周辺部は同程度の築年数の建物が出てきても取引がなかなか進まない。 また、現在も相談対応等はしているが、耐震化されていない空き家や経済的な理由で片付けを進められないケースがある。特定空き家になれば取壊しができるが、特定空き家になる手前の空き家が増加することが予想される。 市の現状の取組みでは不十分であるため、もう 1 歩踏み込んだ施策が必要と考える。
事務局	特定空き家を市が解体することになれば膨大な費用がかかるため、国の補助制度を活用しながら解体費用の一部を補助する制度を建築住宅課で検討している。現場の声を参考にさせていただきたい。
委員	以前佐久市で空き家バンク登録のためのリフォーム補助金があったがあまり活用されなかった。移住者向けの補助金よりも空き家所有者に対し負担軽減するような施策が必要だと考える。 他市町村では、解体してそこに新たに自分で家を建てる人に対し、土地の補助金と解体費用の補助金を出しているところもある。 こうした制度があれば、資金的な理由で空き家対策に手を出せない人にとって大きな助けになると考える。
事務局	「高速ネットワーク」について説明
部会長	「高速交通ネットワーク」について、質問、意見等あるか。
委員	中部横断自動車道と松本佐久連絡道路については、早急にお願

	いしたい。 「地域交通ネットワーク」について説明
事務局	
部会長	「地域交通ネットワーク」について、質問、意見等あるか。
委員	区からの要望 1,602 件中 895 件について実施とあるが、期間はいつからいつまでのものか
事務局	令和 6 年度のものである。
委員	デマンドワゴンを利用されている方にアンケートを取ったとのことだが、どのくらいの人数が利用しているのか。
事務局	定期的に利用されている方が 2,047 名、過去には利用したことがあるが、現在は利用していない方が 2,000 名の計 4,047 名となっている。また利用者の 70 代、80 代が 71%を占めており、若い方も数%ではあるが利用している。
委員	高齢者にとってはとてもいい取り組みなのでさらに進めていただき満足度が上がるようにしてもらいたい。
委員	若い方も利用できるとのことだが、私の認識だと高齢者しか利用できないと思っていた。若い方も利用できるというように広報すると良いと思う。
委員	自動運転について何か研究しているのか。
事務局	DX の所管部署で先進地視察をする中で問題点がどこにあるかなど研究を始めている。
委員	地域交通の担当部署との横の連携を取って進めてもらいたい。
委員	丁寧に検討されていてよいが、一般の市民は恐らくわからない。広報誌も活字が多く後で見ようと思っても見ない。漫画塾の卒業生に簡単な漫画を書いてもらうのはどうか。

	助成金等もたくさんあるが、市民には分からないので仲介役のような人材がいると助かる。
委員	多治見市では中心市街地活性化で5年後、10年後の街並みはどうなるか小学生向けに漫画にしたものがある。
委員	小中学校では探究学習が行われており、浅科中学校では市の総合計画に関わるような課題について学習をしていた。大人が気づかない視点で課題を見ている子もいるかと思うので、こういったものを活用していくのも1つだと思う。
事務局	今回の計画策定にあたっては中高生のアンケートやワークショップをやっていく予定。
委員	ワークショップ形式にすると来ない人も多いので、直接出向く方がいいと思う。
事務局	現在中込中学校から探究の授業で地方創生について学んでいるグループがあり講義をしてほしいと話しがあり、実施していく予定。 今年度は野沢中学校の1年生にも総合計画や総合戦略について話をした。
委員	シビックプライドの育成のために気をつけてやってもらいたい。
委員	総合計画の策定において、きちんと評価をして、委員の意見を聞いて次の施策に反映している点、部会方式を取っている点は非常良いと思うが、一方でさらなる改善の余地もある。 佐久市はこの人口減少の中でも、減少数が少なく移住者も増えている佐久地域の中心市であり、塩尻市や伊那市のようにDXや最先端技術に対してリスクを取りにいったってでも取組む力はある。 計画策定のプロセスで子供たちをはじめとした市民を巻き込み、計画づくりに参加する機会を増やすことで将来の佐久市を支える世代が地域への当事者意識を持つことにつながると思う。政策の立て方や進捗管理についても、現代的な手法を取り入れるこ

	とで、他の地域からも参考にされるような素晴らしい計画となると思う。
--	-----------------------------------

(2) その他

部会長	(2) その他について、事務局から何かあるか。
事務局	次回の開催は、8月19日(火)午後2時から、佐久市役所6階602会議室となり、第3章 経済・産業分野に係る審議を行う予定。
部会長	全体を通して何かあるか。 ないようなので、以上で本日の全ての審議を終了とする。

3 閉会